

お はら

小原



小原には十津川村役場があり、
その他に警察署、歴史民俗資料館、
道の駅、診療所、公衆浴場などが集結していて、
村の心臓部とっていい場所になっています。

小原に役場が開設されたのは 1949 年（昭和 24）で、
それまでは同じ三村区内の小森にありました。役場の移転などもあって、人口は平谷、折立に次いで三番目の多さを持ちます。小原の名所といえば、役場の向かい側の山手に四所神社があります。1373 年（文中 2）の建立とされ、長慶太上天皇を祀って、八幡、住吉、春日、大地主の四社殿が並列しています。また、歴史民俗博物館は南朝資料や人々の暮らしなどの展示がなされ、ぜひとも訪れたい所です。

盆踊りは 13 日に第一小学校グラウンドで開催されます。西川、武蔵と並んで大踊が国の重要無形民俗文化財に指定されています。その構成は、武蔵、湯之原と多くの共通点を持っています。歌詞も共通のものが多く見られます。

笹竹には灯籠のほかに、染めた和紙の房を上から白、赤、緑の順に連ねた幟のようなものが下げられ、見事な美しさです。

大踊り以外のレパートリーは 26 曲ありますが、特筆すべきは 11 曲もの口説群があることです。口説は物語性のある歌詞です。民謡系の踊り「有田節」「木曾節」など 15 曲のうち「五十三次」と「草津節」以外の「有田節」「木曾節」など 13 曲は、近在の武蔵の盆踊りと完全に曲名が重複しています。しかし、興味深いことに「木曾節」以外は踊りのフリが全て異なり、小原らしさが一貫しているといえます。

フリの特徴としては、自然な流れになっており、特に口説系は優雅な印象を与えます。また、道化の姿をした人が大踊りに登場します。これは、先祖の霊が降りてきて一緒に踊る意味合いがあるといわれています。（中川）







小原

撮影：佐古金一